

アルジネート印象材による上顎歯列の概形印象 評価シート

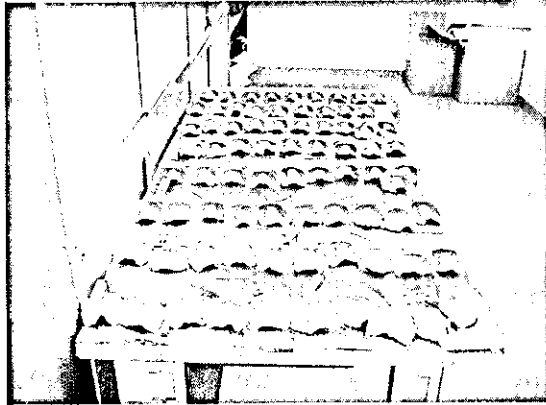
		学生番号	評価者
評価項目		備考	
項目1	<input type="checkbox"/> トレーの選択が正しい。 <input type="checkbox"/> 位置づけが適切である。 <input type="checkbox"/> トレーの圧接が適切で金属露出がない。 <input type="checkbox"/> 印象材が適正に練和されている。	すべてを満たす場合に10点。 1減ごとに8, 6, 3, 0点とする。	小計
項目2	<input type="checkbox"/> 咽頭方向への流れが顕著でない。 <input type="checkbox"/> 上唇小帯が確認できる。 <input type="checkbox"/> 両側の頬小帯が確認できる。 <input type="checkbox"/> 両側上顎結節が確認できる。	すべてを満たす場合に10点。 1減ごとに8, 6, 3, 0点とする。	小計
項目3	<input type="checkbox"/> 咬合面(切端)に気泡がない。 <input type="checkbox"/> 咬合面(切端)に1mmφまでの気泡がある。 <input type="checkbox"/> 咬合面(切端)に1~3mmφまでの気泡がある。 <input type="checkbox"/> 咬合面(切端)に3~5mmφまでの気泡がある。 <input type="checkbox"/> 咬合面(切端)に5mmφを越える気泡がある。	10点 8点 6点 3点 0点	小計
項目4	<input type="checkbox"/> 歯頸部に気泡がない。 <input type="checkbox"/> 歯頸部に3mmφまでの気泡がある。 <input type="checkbox"/> 歯頸部に3~5mmφまでの気泡がある。 <input type="checkbox"/> 歯頸部に5~10mmφまでの気泡がある。 <input type="checkbox"/> 歯頸部に10mmφを越える気泡がある。	10点 8点 6点 3点 0点	小計
項目5	<input type="checkbox"/> 口蓋部に気泡がない。 <input type="checkbox"/> 口蓋部に5mmφまでの気泡がある。 <input type="checkbox"/> 口蓋部に5~10mmφまでの気泡がある。 <input type="checkbox"/> 口蓋部に10~20mmφまでの気泡がある。 <input type="checkbox"/> 口蓋部に20mmφを越える気泡がある。	歯頸部から1cm以上離れた範囲に気泡がないと10点 8点 6点 3点 0点	小計

合計

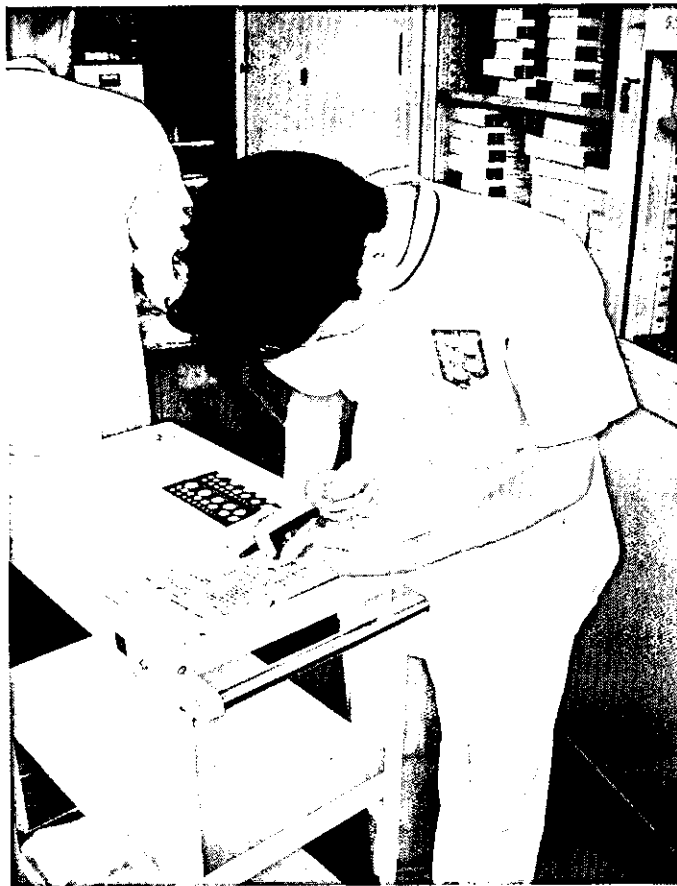
資料2



試験風景



提出作品



採点風景

下図は、大学の保存修復学実習の歯髄保護（覆髄・裏層）／直接・間接覆髄の示説用の付図であり、本モデル実技試験 問題1. 歯髄保護（覆髄・裏層）および仮封の付図と類似しております。参考に6枚添付致します。（出典；加藤喜郎：生物学的接着修復の臨床 1. 基本術式編 第1版、78～82（図VI-2、16、19、28、30、49）、クインテッセンス、東京、1997.）

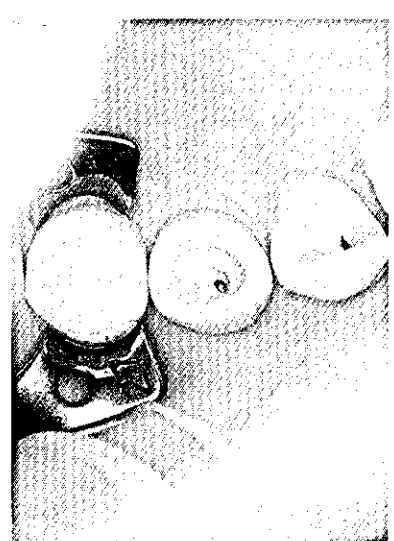


図1



図2

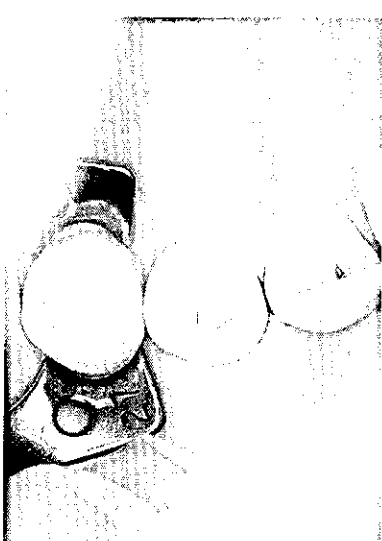


図3

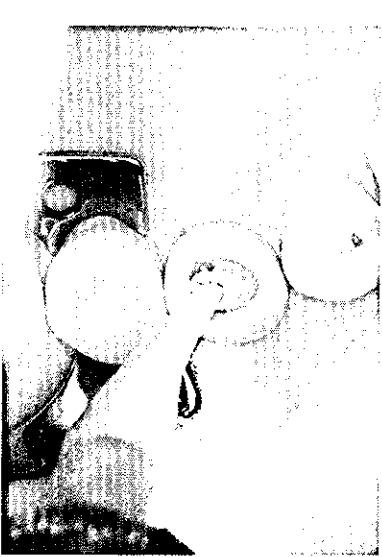


図4

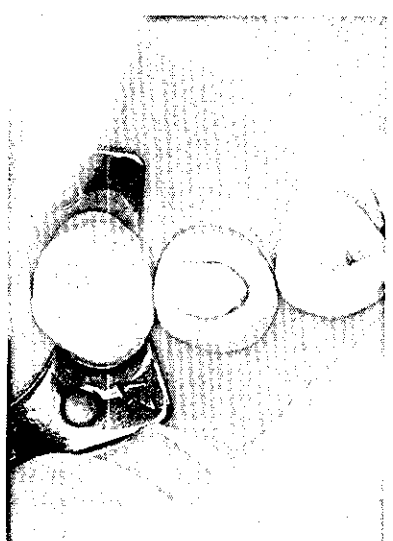


図5

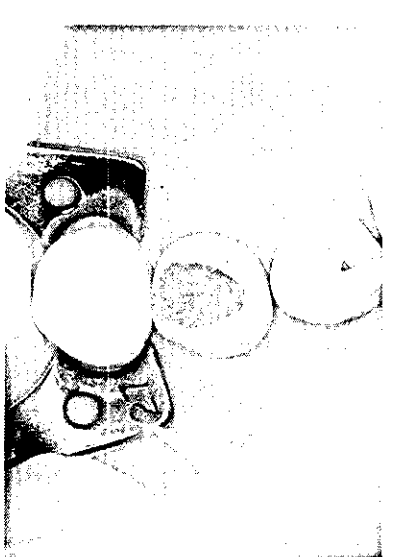
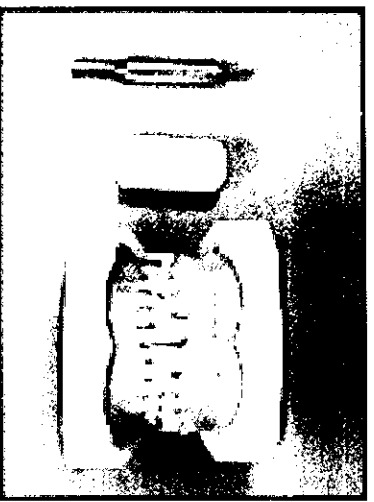


図6

- 図1 4]の咬合面頬側髓角部にφ1.5～2.0mmの露髄部が見られる。
- 図2 滅菌単ガエーゼで清拭した小筆をもう一度生理食塩液で濡らした後に水酸化カルシウム粉末に接触させて、小筆の先端部に水酸化カルシウム泥の小塊を作る。
- 図3 直接歯髄覆罩後の窩洞内所見。露髄面は水酸化カルシウムによって過不足なく、適正な厚みで被覆する。
- 図4 CRシンジジを押しして適量の酸化亜鉛ユージノールセメント泥を水酸化カルシウムの上に押し出してできるだけ無圧的に積層する。
- 図5 間接歯髄覆罩後の窩洞内所見。ユージノールセメントによって水酸化カルシウムおよび窩底象牙質は過不足なく、適正な厚みで被覆されている。口腔内におけるセメントの硬化時間は3～5分間である。
- 図6 グラスアイオノマーセメントのベースセメント®/ピソクによる裏層および仮封の完成形態。この状態で一定期間経過観察を行い、結果が良ければ永久修復に移行する。

問題 1



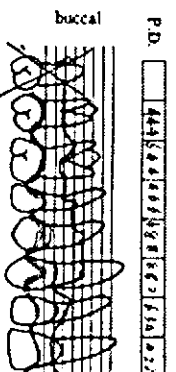
歯周病顎模型を用い、歯周ポケット診査および歯肉辺縁の位置の記入を行う。



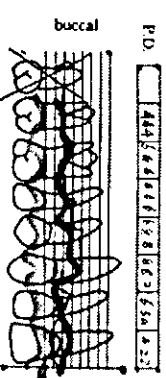
正答の歯肉ラインとポケット底のラインを透明シートに記入しておき、学生の解答を重ねて解答と正答の差を主観的に判断する。

資料 4

*なお図の横線は1メモリ2mmで示して
います。
A



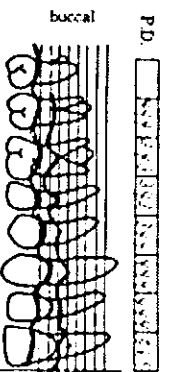
*なお図の横線は1メモリ2mmで示して
います。
A



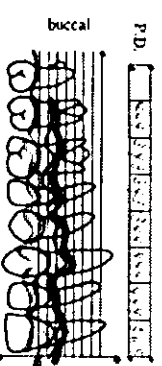
Aランク評価を与えた解答

正答を重ね合わせたところ

*なお図の横線は1メモリ2mmで示して
います。
B



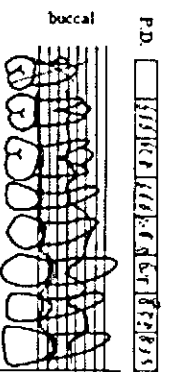
*なお図の横線は1メモリ2mmで示して
います。
B



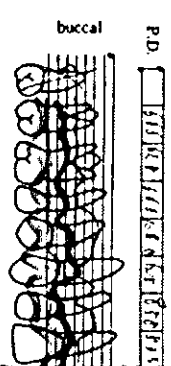
Bランク評価の解答

正答を重ね合わせたところ

*なお図の横線は1メモリ2mmで示して
います。
C



*なお図の横線は1メモリ2mmで示して
います。
C

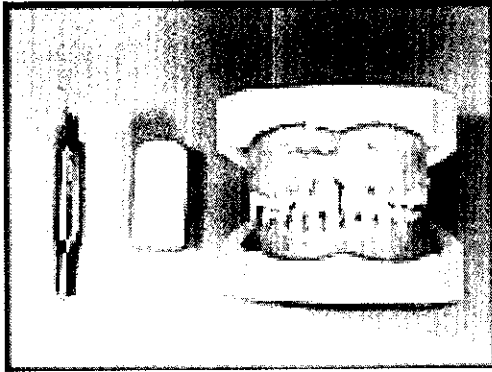


Cランク評価の解答

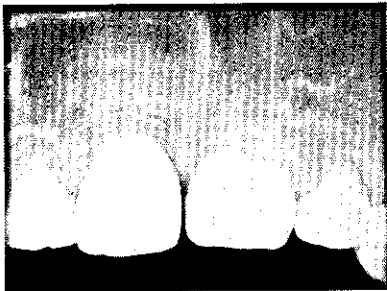
正答を重ね合わせたところ

問題 2

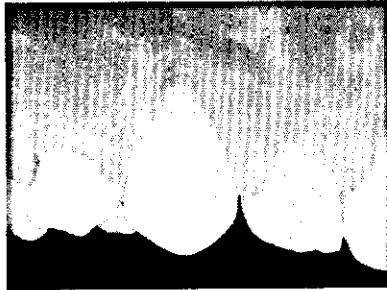
資料 5



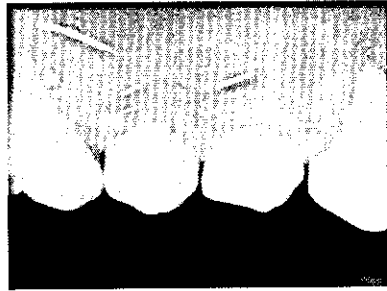
問題 1 と同じ顎模型



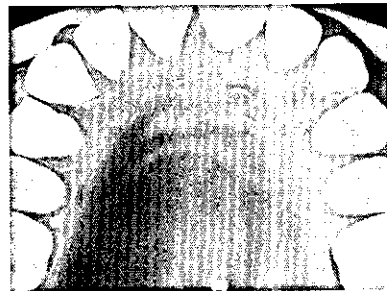
小帯異常



クレフト



フェストウーン



テンションリッジ

このような歯肉の形態異常を再現した顎模型から質問された歯肉の形態異常の有無および部位を答えさせる。分岐部病変についても同様に行う。

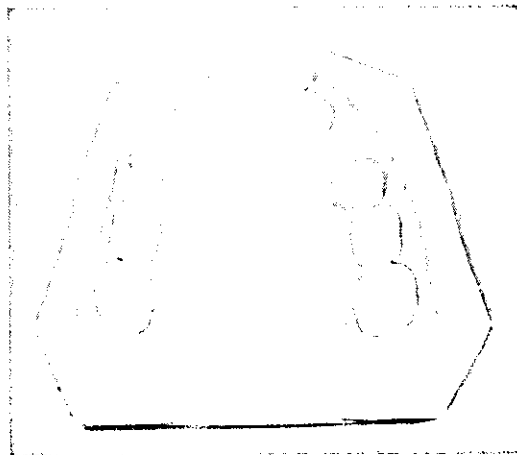
受験者用資料

(課題) アルジネートを用いた上顎の印象採得と矯正診断用上顎模型の作製

マネキンを患者さんに見立てて上顎全体の印象を採得し、硬石膏を用いて矯正診断にあたって必要な情報を有する上顎の模型を作製せよ制限時間は60分。

(注意事項)

- ・印象トレーにつけるピンクラベルならびに模型底面への貼付用白ラベルに受験番号と氏名のイニシャルを記入せよ(例: 23番、J.M)。
- ・用意された器具、材料を用いて印象材を練和(手練り)して上顎の印象を採得せよ。
- ・マネキンの頭位は必要に応じて上下させてかまわない。
- ・印象硬化後、硬石膏を練和し上顎模型を作製する。
- ・ラバーボールは印象採得後洗浄し、石膏練和用として使用すること。
- ・石膏硬化後、下図のようにトリミングを行い模型底面も可及的に平坦化させること。
- ・完成した模型の底面にデンタルシャノンを用いて白ラベルを貼付せよ。
- ・印象トレーは印象がついた状態でピンクラベルを付けてポリ袋に入れ、模型と一緒に提出せよ。
- ・時間内であれば印象の練り直し、採り直しをしてもかまわない。



評価シート

受験者番号： _____

名前 (イニシャル)： _____

評価者 (イニシャル)： _____

Excellent (10) Good (8) Moderate (6) Fair (3) Poor (0)

(印象採得： 模型撤去後の印象を評価)

1. トリーの位置づけは適切であったか

(上顎模型・矯正診断に必要な要素)

2. 上顎歯列弓形態、左右対称性の確認 3. 歯肉縁の確認が可能か 4. 口蓋形態、深さの確認が可能か 5. 小帯の付着状態を確認できるか 6. 歯槽基底弓長径の計測が可能か 7. 歯槽基底弓幅径の計測が可能か

(模型の作製能力)

8. 気泡の有無 9. 表面精度は良好か 10. 模型の仕上げ (基底部を含む)

合計： _____ 点/100点満点

Poor (0) 項目数： _____ 項目/10項目

評価規準マニュアル

評価項目	
1	①位置づけが正しい ②気泡が無い ③印象材の後方への流れが顕著でない ④トロー圧接が適切 (トローの金属部露出が無い) (全て満たす場合に10点、以下1項目減ることに8、6、3、0点とする)
2	①上顎結節部が模型上に再現 ②6/遠心部から模型後面までの距離が左右で一致 ③側方歯群から模型側面までの距離が左右で一致 ④前歯部から模型前面までの距離が左右で一致 (全て満たす場合に10点、以下1項目減ることに8、6、3、0点とする)
3	10点：歯肉縁に1mm以上の気泡がない 8点：気泡が1個 6点：気泡が2個 3点：気泡が3個 0点：気泡が4個以上
4	10点：口蓋最深部に気泡がない 8点：気泡がφ1mm以下 6点：気泡がφ3mm以下 3点：気泡がφ5mm以下 0点：気泡がφ7mm以上
5	10点：4つの小帯 (上唇小帯1、頬小帯3) 全て確認可能 8点：3つ可能 6点：2つ可能 3点：1つ可能 0点：確認不可能
6	10点：上唇小帯両側部と左右6/部4箇所を確認可能 8点：3箇所可能 6点：2箇所可能 3点：1箇所可能 0点：確認不可能
7	10点：左右46/部の4箇所を確認可能 8点：3箇所可能 6点：2箇所可能 3点：1箇所可能 0点：確認不可能
8	10点：印象面に1mm以上の気泡がない 8点：気泡が1個 6点：気泡が2個 3点：気泡が3個 0点：気泡が4個以上
9	10点：側面・底面に気泡がほとんどない 8点：少しある 6点：やや多い 3点：多い 0点：かなり多い (気泡の密度で判断)
10	示した図のとおりにトリミングされているかおよび底面と咬合平面の平行性 ①底面と咬合平面がほぼ平行 ②前方部のトリミングが適切 ③側方部のトリミングが適切 ④後方部のトリミング適切 (全て満たす場合に10点、以下1項目減ることに8、6、3、0点とする)

表1 患者ロボット自由度構成

Number	Item	D.O.F	Motion
1	Eyeball	1 (active)	Right and Left
2	Eyelid	1 (active)	Open and Close
3	Jaw	1 (active)	Open and Close
4	Tangue	3 (active)	Protrusion and Retrusion
			Tip Up and Down
			Expansion
5	Expression	2 (active)	Cheek Up and Down
			Knit Eyebrows
6	Neck(Head)	3 (active)	Nod
			Rotation
			Tilt
7	Chest	1 (active)	Breath
8	Shoulder	3×2 (passive)	-
9	Right Elbow	1 (active)	Bend and Stretch
10	Right Wrist	1 (active)	Up and Down
11	Left Elbow	1 (passive)	-
12	Left Wrist	1 (passive)	-
13	Hip Joint	3×2 (passive)	-
14	Knee	1×2 (passive)	-
15	Ankle	1×2 (passive)	-

資料 10

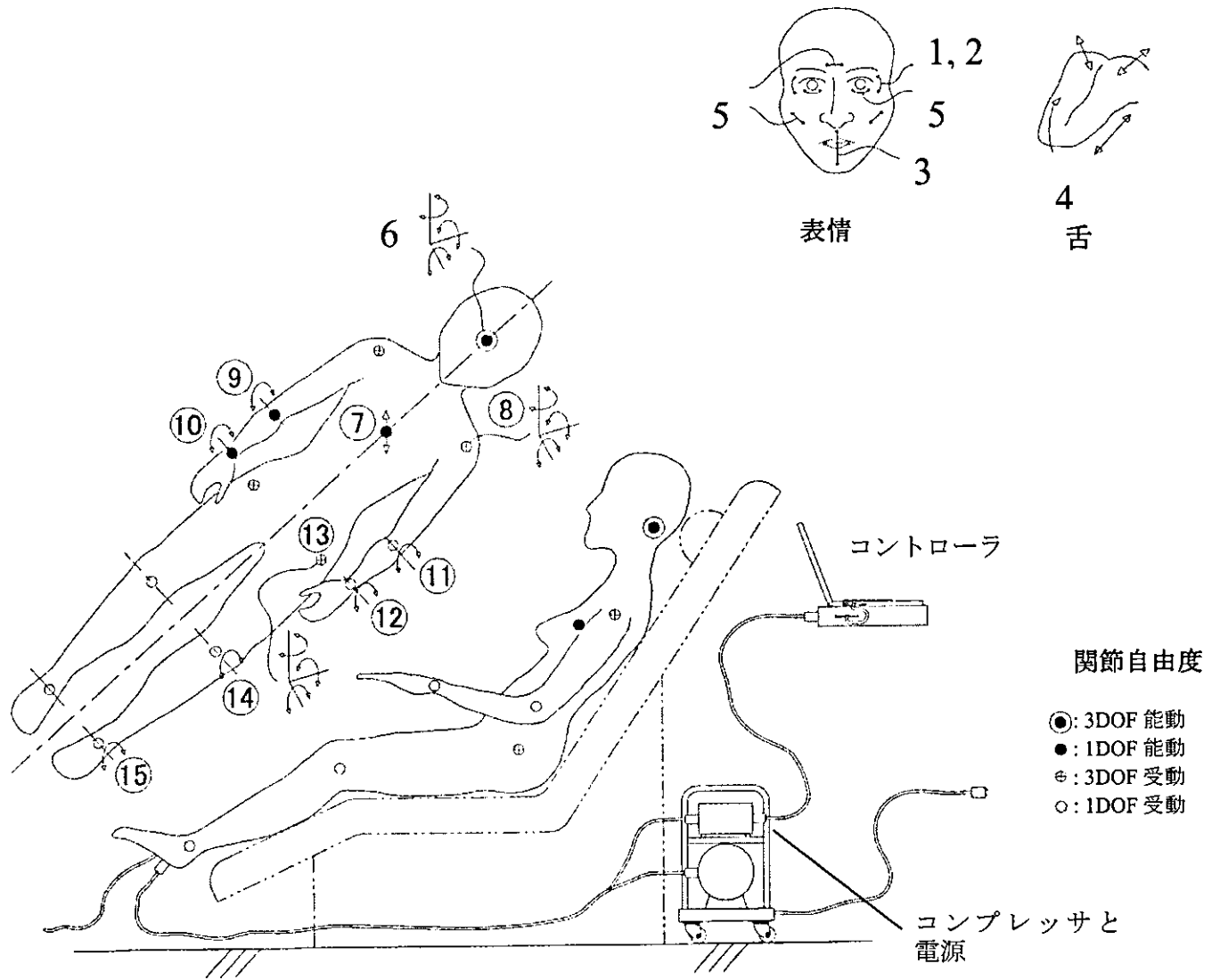


図1 患者ロボット構成

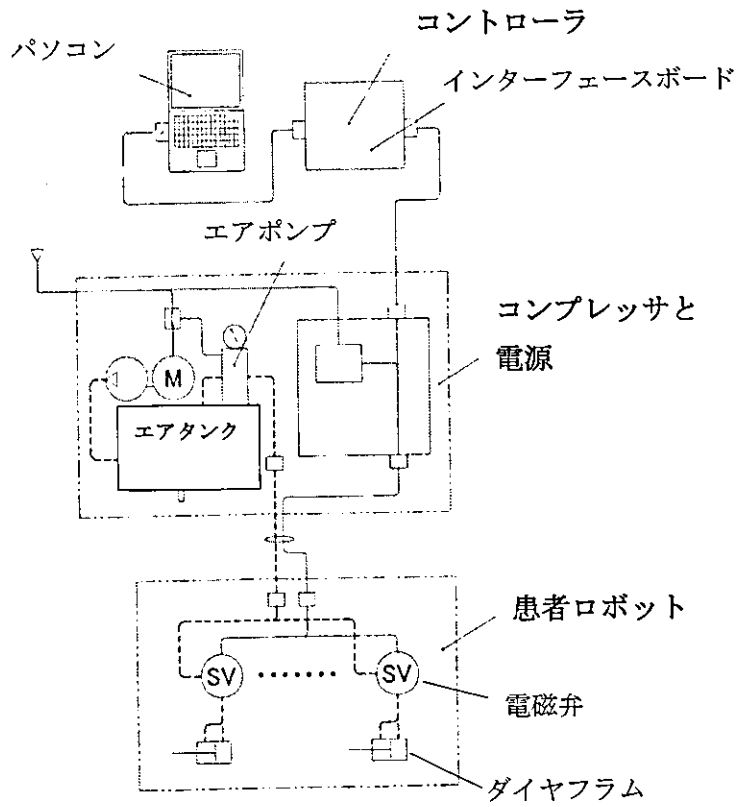


図2 患者ロボットのシステム構成

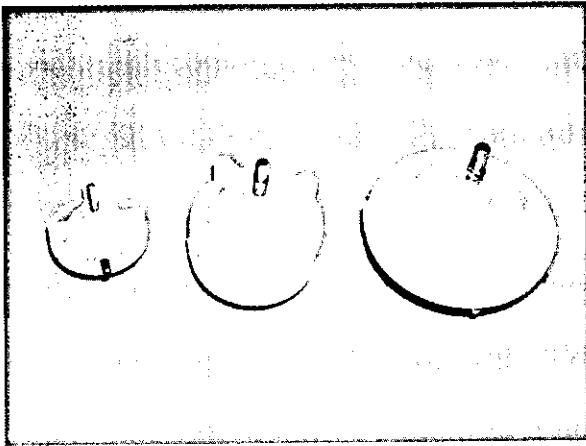


図3 ロボット用ダイヤフラム



図4 頭部 (表皮付き)

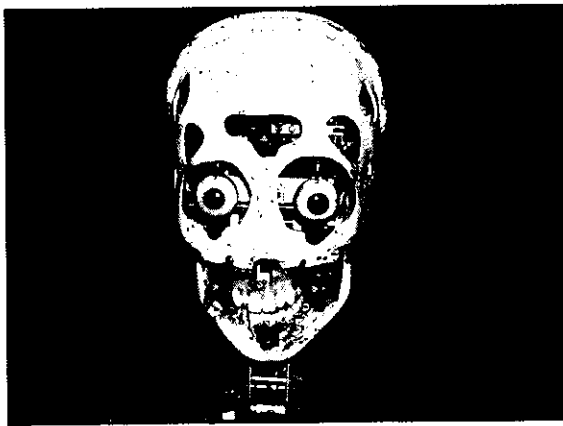


図5 頭蓋骨 (頭部フレーム)

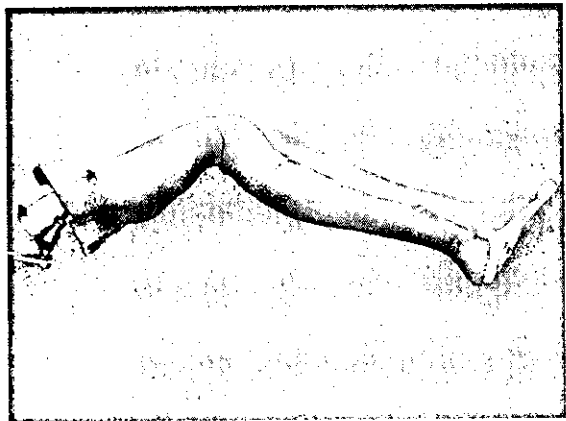


図6 脚

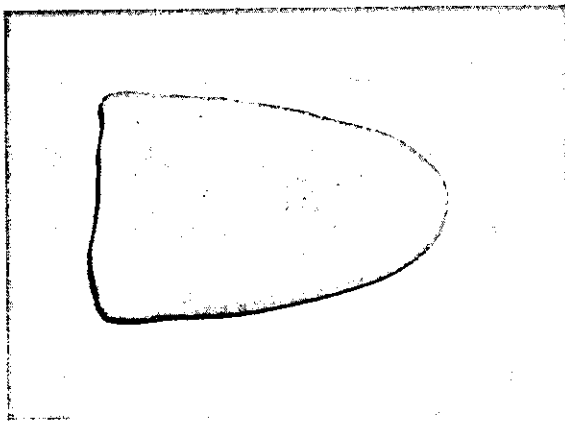


図7 舌

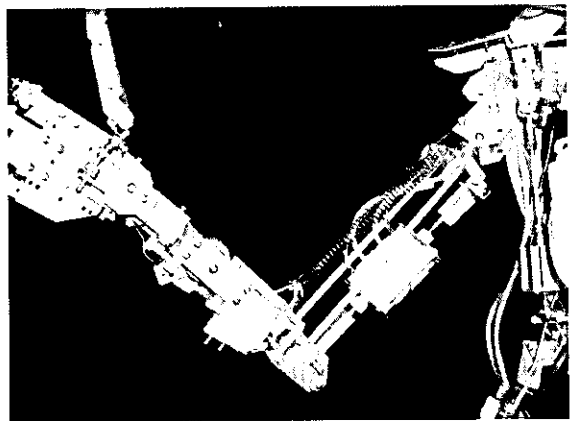


図8 右腕

試験 1 (透明根管模型による根管拡大・形成試験)

被験者	15分経過	30分経過	終了時刻
被験者 1	#40	終了	30分
被験者 2	#35	仕上げ	35分
被験者 3	#50	終了	30分
被験者 4	#45	終了	30分
被験者 5	#25	#80	37分
被験者 6	#15	#50	43分
被験者 7	#15	#40	43分
被験者 8	#40	終了	27分
被験者 9	#35	#80	37分
被験者 10	#30	#45	36分
被験者 11	#20	#80	37分
平均			35分

試験 2 (透明根管模型による根管充填試験)

被験者	15分経過	30分経過	終了時刻
被験者 1			14分
被験者 2			15分
被験者 3			16分
被験者 4			14分
被験者 5			17分
被験者 6			14分
被験者 7			18分
被験者 8			11分
被験者 9			18分
被験者 10			20分
被験者 11			14分
平均			15.5分

試験 3 (顎模型根管付人工歯による根管拡大・形成試験)

被験者	15分経過	30分経過	終了時刻
被験者 1	#40	終了	30分
被験者 2	#40	終了	30分
被験者 3	#35	終了	30分
被験者 4	#35	仕上げ	34分
被験者 5	#25	仕上げ	34分
被験者 6	#40	終了	30分
被験者 7	#15	#70	37分
被験者 8	#45	終了	26分
被験者 9	#40	仕上げ	34分
被験者 10	#40	終了	30分
被験者 11	#40	仕上げ	33分
平均			31.6分

試験 4 (顎模型根管付人工歯による根管充填試験)

被験者	15分経過	30分経過	終了時刻
被験者 1			13分
被験者 2			13分
被験者 3			8分
被験者 4			9分
被験者 5			12分
被験者 6			13分
被験者 7			14分
被験者 8			11分
被験者 9			13分
被験者 10			11分
被験者 11			12分
平均			10.7分

資料16

手術内容別請求割合
(平成8年6月社会医療診療行為別調査報告書)

診療行為		%	診療行為		%
抜 歯 術	前 歯	12.8%	歯根嚢胞摘出術	0.9%	
	臼 歯	25.8%	歯槽骨整形術	13.6%	
	難抜歯	4.9%	歯肉息肉除去手術	5.9%	
	埋伏歯	0.9%	歯肉膿瘍切開等	10.6%	
	小 計	44.4%	骨膜下膿瘍切開	2.3%	
			小 計	33.3%	

[(%)は全手術処置における割合]
総計: 1,728,081件(77.7%)

資料17


ファントム実習の課題内容
(平成12年度全国歯科大学(歯学部)調査)

手 術	実施率	処置・検査	実施率
普通抜歯	69%	顎間固定法	66%
埋伏智歯除去	59%	口腔内包帯法	10%
切開法	66%	スプリント療法	10%
縫合法	72%	一般血液検査	62%
歯根嚢胞摘出術	38%	出血性素因	55%
歯根端切除術	41%	尿検査	55%

資料18

上顎モデル

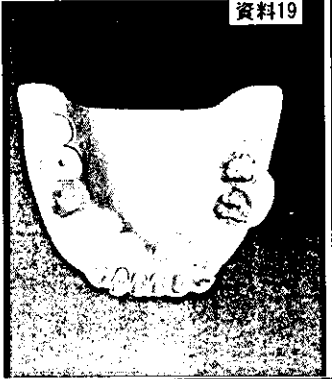
疾患名
C ₄
埋伏歯
欠損歯
根尖性歯周炎
辺縁性歯周炎
歯根嚢胞
歯周膿瘍
口蓋隆起



資料19

下顎モデル

疾患名
C ₄
埋伏歯
欠損歯
根尖性歯周炎
辺縁性歯周炎
歯根嚢胞
歯周膿瘍
下顎隆起




資料21

評価票

診断名	マークシート部分																診断名
	8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8	
	8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8	部位
	マークシート部分																
診断名																	診断名